

10月31日ハロウィン特集

～ニュースレター番外編～ 第22回～

<10月のイベントの定番ハロウィンって何?>一部楽天市場のサイトから抜粋

私が子供の頃にはなかった「ハロウィン」ここ10年ほどで一気に盛り上がりを見せ市場は大きくなっています。そもそもの起源は『毎年10月31日に行われる、古代ケルトを起源とする民間行事のひとつです。古代ケルトでは、この夜に悪霊や魔女などが出てくると信じられていました。そのため、悪さをする霊や魔女から身を守るために仮面を被ったり魔よけの焚き火などをしたと言われていました。現在では宗教的な意味合いは薄れ、子供たちが精霊やお化けに仮装してお菓子を貰ったり、ホラーを楽しんだりするイベントとなり多くの国で親しまれています。』

なるほど!!日本におけるお盆のようなイベントですね!アメリカやカナダでは10月31日はホームパーティーを開催して過ごすことも多いようです。

<日本のハロウィンの歴史>

最初のハロウィン関連の商品を販売したのはキディランド原宿店です。このお店の販促イベントとして「ハローハロウィンパンプキンパレード」だと言われています。原宿表参道を100人の人が1983年にパレードに参加したそうです。1997年には川崎で「カワサキハロウィン」がスタートしています。そんな街単位でのハロウィンがスタートした頃東京ディズニーランドが1997年にハロウィンイベントを開催しました。テレビや雑誌にも取り上げられ各お菓子メーカーもカボチャ味のスナックやチョコレート菓子などを次々と販売。2002年にはユニバーサルスタジオジャパンがハロウィンのイベントを開催します。ここまで来ると10月31日はハロウィンの日という意識が根付いてきます。ちなみに今年の東京ディズニーランドのハロウィンイベントはコロナで中止です。ハロウィンは仮装して入園できるので年々集客が上がっているイベントです。中止は思い切った決断だと思います。

<仮想の意味とテーマ>

もともと悪霊を追い払うために魔女やお化けなどに仮装するのが定番でした。怖いメイクやおどろおどろしい血の付いたメイクなども仮装パレードではよく見かけます。しかし日本の仮想は海外と違い仮想さえすればOKというルールがあるようです。ちなみに昨年の10月31日に集団の子供たちが仮装をして歩いている姿を見ました。ここまでハロウィンの認知度が高まっていることに驚きました。

<ハロウィン市場規模>

2016年	1345億円
2017年	1305億円
2018年	1240億円
2019年	1155億円

ハロウィンの市場は2016年がピークを迎え年々下落しています。ただ、バレンタイン市場が2019年は1260億円です。かなり大きな市場規模に成長しました。恐らく1000億円前後を今後推移すると見込まれます。食品ビジネスに関わる人は見過ごせないイベントだと思いますので今回はハロウィン関連の商品をご紹介します。

<トマトあんの販売について>

トマトあんですがやはり夏なのかご注文が芳しくないのが現状です・・・ただ味には自信があるのでまずは一度ご試食いただくと助かります。夏らしいあんこができたという自負があるので是非一度お試しください。プレゼンに来てほしい!そんなリクエストもお待ちしています。サンプルのご依頼をお待ちしております。



トマトあん	1kg	夏の新しいあんこが誕生します!	是非欲しい! ・ いらない。
-------	-----	-----------------	----------------